

8. 地元大学に望むこと

07. 1.

地元にあるいくつかの大学のうち、地元に期待されているにもかかわらず、学生数の少ないことに加えて簡素な住宅地に立地しているためか、活気に乏しい大学がある。この大学の活性化について思うところを述べることにした。

大学がより一層活性化し県民から熱く慕われるためには「地域を育てるのは地域である」という視点が必要かと思っている。小中学校(や高校)の教育は地域と共にあるが、大学となると地域連携が薄いように見えるので、富山の地にそうした大学をぜひ目指して頂きたいというのが願いである。

具体的には、市民との交流、開かれた大学、地域を支える大学といった方策が必要となるが、私は以下の三点を望みたい。

(1) 地域の教育を産業界と共に育んでいく。そのためには地域の産業をぜひ知的に支持して欲しいものである。ただし産学連携は地域ぐるみの活性化という意味であり、人間関係をより一層富ませるものである。産学連携の詳細には多くの方が語っているので省略する。

(2) 富山の特徴を全国・全世界に発信いただきたい。富山といえば恵まれた自然(水、森、農業、山)を如何に発展させていくか、大学の環境部門を核にして学術的サポートをお願いしたい。こうしたことはすでに勢力的に進められているが、いま少し地域民との交流により研究の還元ということで地域との連携を図って欲しい。成果は県民にとってプライドとなって現れるはずである。

(3) 市民との連携をすすめる。この種の取り組みには、大学を中心としたまちづくりとか、生涯学習や子供学習などがあるが、ここでいう連携とは、日常性の次元でかかわりを如何に持つかということである。具体的方策を列挙すると(実現の有無は別として)；

ミニサロン構想として、いつでもどこでも(大学の)誰かがいて交流する。他大学の学生も気軽に立ち寄れるなど。キャンパスに散策コースやコミュニティ広場があればと思う。

小さな大学だからこそ、優秀な人材にめぐまれた大学だからこそ、市民連携としての活性化は可能である。